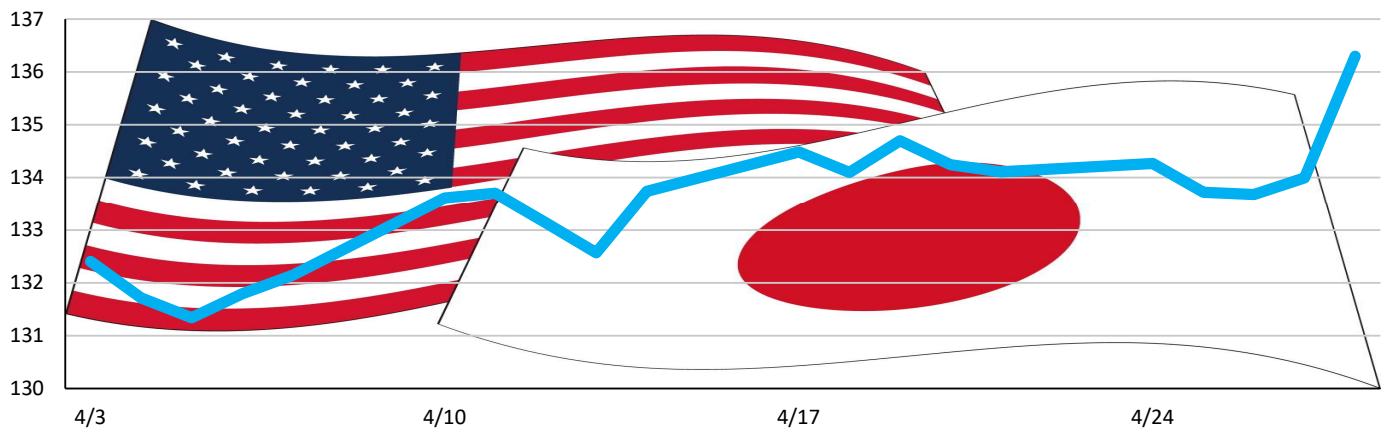


MARKET REVIEW

先月の振り返り：4月のドル円相場は130円半ば～136円半ばで推移。米国の各経済指標が市場予想を下回りドル売りが進んだが、米雇用統計が市場予想を上回ったことで一転ドル買いとなり、さらに日銀の植田総裁が金融緩和政策継続姿勢を示したことで134円台を回復。ただ米消費者物価指数や米卸売物価指数が軒並み市場予想を下回り再びドル売りが進んだものの、ウォラーFRB理事のタカ派的発言に加え、セントルイス連銀総裁から、FRBは利上げを続けるべき、と強気の発言などでドル買いが進み135円台となった。その後は日銀金融政策決定会合を控えて売り買いが交錯していたが、日銀が金融緩和政策を継続し、現在の金融政策を1年から1年半かけて多角的に検証する、とのことで金融緩和政策が当面続く見通しを再確認したことで円売りが加速し136円台となった。

(円) 米ドル円為替レート(終値ベース)



EXTRA VISION

今後の展開：日銀が金融緩和政策を当面継続していくことを確認できたことで、日米金利差を意識した円安ドル高が続いていきそうだ。ただ米経済指標発表内容によっては米FOMCの利下げ時期をめぐった思惑的な動きで乱高下する場面も想定される。また米ファースト・リパブリック銀行が経営破綻したものの、JPモルガン・チェースによる買収で影響は限定的になったが、欧米金融機関の経営危機が続いていることを踏まえると、今後も突発的な動きに対応できるようにしておきたい。

今月の主な経済指標 ※ 日本時間

日付	時間	国	指標名	重要度
5 / 16 (火)	21 : 30	US	小売売上高	☆☆☆☆
5 / 23 (火)	22 : 45	US	購買担当者景気指数	☆☆☆☆
5 / 25 (木)	21 : 30	US	米GDP改定値	☆☆☆☆
5 / 26 (金)	21 : 30	US	個人消費支出	☆☆☆☆
6 / 2 (金)	21 : 30	US	米雇用統計	☆☆☆☆☆
6 / 13 (火)	21 : 30	US	消費者物価指数 (CPI)	☆☆☆☆
6 / 15 (木)	3 : 00	US	米連邦公開市場委員会 (FOMC)	☆☆☆☆☆

本書面は、合同会社フィナンシャルヴィレッジプレザンス(以下「当社」)が、投資一般に関する情報提供を目的とするものであり、投資の勧誘を目的としたものではありません。本書面に記載されている情報には将来的な業績や出来事に関する予想が含まれていることがありますが、それらの記述はあくまで予想であり、その内容の正確性、信頼性等を保証するものではありません。また、情報の正確性については万全を期しておりますが、その正確性、信頼性等を保証するものではありません。投資に関するすべての決定は、ご自身の判断でなされるようお願い致します。本書面に記載されている情報に基づいて被ったいかなる損害についても、当社及び情報提供者は一切の責任を負いません。